

令和元年第12回 日高市教育委員会会議録

開催の日時	令和元年12月19日（木曜日） 午後2時13分から4時30分まで
会議開催の場所	市役所503会議室
会議の公開又は非公開の別	公開。ただし人事案件については非公開。
非公開理由	個人に関する情報が含まれるため。
出席委員の氏名	中村一夫（教育長）・山川治美・島村由起男・井上三枝・新堀陽子
欠席委員の氏名	なし
説明員の職氏名	教育部長 吉野靖彦・教育部参事 秋馬信之・教育総務課長 荻野毅・学校教育課長 野村弘人・学校教育課副参事 松崎努・生涯学習課長 駒井実・図書館長 野口宗孝
出席した事務局職員の職氏名	教育総務課主幹 菊地誠治
傍聴者数	1人
会議資料の名称	会議次第・教育長報告・議案第42、43号・配布資料一覧

議題及び決定事項等

議案第42号 令和2年度日高市教育委員会事業等の予算要求について
原案どおり可決

議案第43号 日高市教育振興基本計画策定等委員会委員の委嘱について
原案どおり可決

会議の経過

1) 前回会議録の承認事項 出席委員異議なく承認

2) 教育長報告の要旨

○校長会議、教育委員会部課長会議における教育長指示・伝達内容について報告した。

○その他、各部課長から、実施した事業等の結果と今後の予定を報告した。

3) 教育長報告についての質疑及び答弁の要旨

【教育長報告関連】

(委員) 図書館の業務について、「本の福袋」は大変面白い企画であり、継続してほしい。展示の仕方も工夫されていて素晴らしいと感じている。最近では恐竜の骨の展示なども素晴らしかった。また、ポコ・ア・ポコの活動なども市が誇れる活動ではないかと感じているところである。子どもたちも図書館での空間を楽しむことが出来ている。

(図書館長) ありがとうございます。

(委員) 窓口民間委託になったのは、いつであったか。

(図書館長) 平成 29 年 4 月からである。

(委員) 非常に大きい転機であったところで、図書館について、いろいろ評判を聞く機会があるが、劇的に変わったという声が聞かれる。資料によると本の貸し出し数や利用者延べ人数などが伸びているので、変わったことによる要素と思われるが、AV 資料については、平成 25 年度から平成 28 年度に向けて減少となり、そこから平成 30 年度に向けて上昇しているという V 字を描いている。この理由は何か。

(図書館長) レーザーディスクやビデオテープの劣化等でビデオデッキの中にテープが絡まるなどの状態となり、貸し出しを控えていたため減少していた状況であった。現在は、CD などを展示して貸し出しをしたり、貸し出し点数を増やしたりしたことにより、増加に転じたところである。

(委員) ビデオなどから映像媒体が大きく変わったので、ブルーレイなどに変換しておけば今後 20 年くらいは対応可能ではないか。今ある資料について、媒体変換をすることは考えていないか。

(図書館長) ダビングなど著作権の関係があり難しい部分がある。

(委員) ビデオを修復する業種もあるので、予算があれば、日高の歴史や埼玉の歴史など貴重な資料もあるので、残せるように努めてほしい。

(図書館長) わかりました。

(委員) 窓口民間委託にして、良い雰囲気になったと色々な方から聞いており、実際見たところでもそのように感じられるが、現在までの間にデメリットを感じた部分はないか。

(図書館長) 従来、休館日については、毎週月曜日に職員で本の整理にあっていた。民間委託後については、毎月 1 回の休館日に委託職員を含めて集中的に本の整理などを実施することとなり、その休館日の余剰時間を活用して、委託先から市職員に対しての研修や講習など、以前は出来なかったことが出来るようになったなど職員にも丁寧な対応をいただいているメリットはあるが、デメリットの部分は特に感じていない。

(委員) 議会の一般質問における学校給食センターの建て替えについて、PFI 方式導入によるリスクとあるが、どのような答弁としたのか。

(教育部長) 質問の主旨は、例えば地元の食材を給食に使用するケースで、地元農家からの調達の際に、不揃いなものなど品質にばらつきがある場合に、PFI による受託者が機械で食材をカットする際など規格品でないと受けられないという恐れはないのかという主旨であった。現状、不揃いでも対応しており、PFI としても変わりなく対応していく旨の答弁とした。

(委員) 建設などに係るリスクという話ではないということか。

(教育部長) 建設の部分ではなく運営の部分の質問であった。柔軟な対応が出来る

かどうかの内容と考えられる。

(委員) 少し内容が離れるが、現在、食材の中に輸入品は含まれているのか。

(教育部長) 野菜については、JA いるま野を通じて調達しており、基本的には埼玉県産となる。国産で賄えるものは国産としている。パンなどで小麦粉は輸入品の可能性がある。

(委員) 議会の一般質問における児童生徒の不登校・いじめの現状について、過去3年間の推移については、児童生徒数が減っているのですが、件数ではなく%でないと実際の増減は分からないところではあるが、執行部からの報告によると平成28年に小学校でピークであった件数が減少しているとのことである。代わりに中学校の件数が増加しているのですが、そのまま繰り上がっているだけではないか。

(教育部参事) 一概には言えないと考える。中1ギャップにより生じた件数もある。

(委員) 小学校から中学校へ移行した子の対応が肝心であり、中学校から新規に不登校になった子もいると思うが、実態把握をしっかりとやっているか。

(教育部参事) 小中学校が連携して年度末に確認及び中学校の教員が把握したうえで、中学校へ引き継いでいる。新しく中学校からそのような状況になった子については、早期発見に努め支援体制を整えている。来年度から小中一貫教育が開始されるので、9年間を通して、しっかりと子どもたちの状況を共有して支援していきたい。

(委員) 対応と現状について、答弁した内容については、そのとおりと感じるが、それが実際に具体的に具現化されているかが非常に学力とリンクする話である。県教委だよりで中1ギャップについて触れているが、学力状況調査において、結果が下がった理由を中1ギャップと説明しているが、本当にそうなのか疑問である。なぜ中1ギャップによって成績が下がるのか問題解決の糸口はどこにあるのか。

(教育部参事) 中1ギャップで捉えたときに小学校では学級担任制で、中学校については、教科担任制となる。子どもたちにとっては、中学校に入りシステムが変わることに適応できない部分が生じるところがある。小学校では、学級担任が深く関わって解決していたところ、中学校については、子どもたちの感じ方として、教員が関わってくれる度合いが少ないと感じる部分があるのではないかと。

(委員) 教科担任ということで、専門的なことは教えられるかもしれないが、総合的な視点が欠けているのではないかと。教員の能力が伴っていない中で、それを単純に中1ギャップという言葉で流してしまうのは危険なことである。

(教育長) 不登校の一つの要因として中1ギャップを挙げているが、ほかには日高には当てはまらないが、中学校に上がると、違う小学校の子も入ってくるので環境の変化によって不安感が原因ではないかという部分もある。

(委員) いじめや学力も含め、改めて道徳の必要性が感じられる。小中一貫教育の中でどのように取り入れ、子どもたちに教育出来るかということと、考える力は個人差があるが、考える力を養うことを含めて小中一貫教育の中で、子どもたちが考えることが出来る時間を取り入れてほしい。また、現場の教員にも具体策を

示して共有してほしい。

(教育長) 校長会議などで定期的に示しているが、なかなか現場の教員個人だけでは客観視が出来ない。管理職が見るのも一つであろうし、仲間同士で授業を見合いながら意見を交換していくことも重要と考える。

(委員 2) 不登校については、社会の風潮として今後増加していくと考えられる。というのは、学校に毎日通うということが全てではないという考え方が現れており、それに対して学校側も以前に比べれば、その考え方を受け入れるような流れが生まれてきているように感じる。現場ではどのように感じているか。

(教育長) マスコミを含めて、そのような風潮があるのは承知している。しかしながら、8050 問題のような引きこもり関連の課題も生じてきており、将来的に不登校から移行することも想定されるため、安易にその風潮を受け入れることは出来ないのではないか。難しいのは、あまり強制的に学校へということが出来ないところと考えられる。

(教育部参事) 過去においては、生徒指導上で登校嗜癖を生徒に与えて学校に来るように促していたところであるが、現在は、文部科学省も学校が全てではないと言っているような状況であるので、教員も子どもたちにとっていろいろな学びの場があって良いのではないかという視点に少しずつ移行しているように感じる。

【教育長報告：資料 1 関連】

(委員) 事故防止に関して、SNS を介しての家出・誘拐について、生徒への指導、保護者への啓発とあるが、どのような指導をしているのか。

(教育長) 危険性を知らせることや実例を挙げていくことがある。また、保護者を含めて研修会を開催している。高萩地区で取り組んでいる BJ プロジェクトは有効的な手段である。

(委員) 小中一貫教育に関連して、春日部市に視察に行ったようであるが、義務教育学校ということで小学校複数校に対して、中学校 1 校の地域での統合である。今後、日高市でも人口の減少によって、複数の小学校区を一つの中学校に統合するというような可能性もあると考える。その際に校舎の位置の設定次第で通学距離の問題が生じるがどのように考えるか。

(教育長) 春日部市においては、スクールバスを 2 コース、時間差で運行している。現状では、小中学校で同一区域としているので問題が生じないが、将来的に検討が必要な課題となる可能性がある。

(委員) 小松県教育委員会教育長からの話で、情報教育の推進のうち自治体により ICT 機器の整備に温度差があるとのことであるが、日高市はどのような状況であるのか。

(学校教育課副参事) 埼玉県自体が高い整備状況ではないが、日高市は県内においては、悪い整備状況ではない。国の財政支援を注視しながら ICT 環境の整備を進めていきたい。

(委員) 来年度の人事について、来年度、教頭職の大幅な異動が予想されるということであるが、事務の引継ぎについて、学校運営に関する引継ぎは当然として、PTA についても今までどのように活動してきたか、どのように関与してきたかなどの活動に関するこもしっかりと引継ぎしてほしい。学校の執行部が総入れ替えになってしまうと、今までの活動の継続性がなくなってしまう、一から変わってしまうこともあるので混乱を招いてしまう。

(教育長) 引継ぎをしっかりと行うように学校へ指示伝達する。

(委員2) PTA の関わりの中で、執行部の変更により従来、PTA で関わっていたものを今後はやめるようお願いされたりするなど方針の転換がある場合が一番困る。その学校の伝統・風土・文化がある中で、異動によりそれらを理解されないまま転換されてしまうと、PTA の役員も混乱するし、そのようなことがあると役員のなり手もいなくなってしまう。異動で着任された方の前の学校でのやり方を一方的に押し付けられても困る。

(教育長) 今後、コミュニティ・スクールの中に PTA も入っていただいて、いろいろご意見をいただきながら進めていける部分であると考えてる。

4) 議案についての質疑及び答弁の要旨

議案第42号について

(委員) 新高萩公民館建設事業の予算要求額について、金額的に建設費用は含まないと思われるが実施内容は。

(教育部長) 建設に向けた実施設計の金額である。

(委員) 教育の情報化事業については、主にネットワーク関連の経費であるか。

(学校教育課副参事) 学校のネットワーク関連のほか、教職員の負担軽減を図るため校務支援に関するシステム構築の予算要求をしたところである。

議案第43号について (非公開)

非公開のため記載せず

5) その他

(1) 次回定例会の日程等について

○1月定例会：1月30日(木曜日)午後1時30分から 委員了承

○2月定例会：2月18日(火曜日)午後1時40分から 委員了承

(2) その他連絡事項

○令和2年日高市成人式

1月12日(日曜日)午前11時開式(ひだかアリーナ)

○入間・比企地区合同教育長・教育委員研修会

1月17日(金曜日)【東松山市：ガーデンホテル紫雲閣】